

首都機能移転県民フォーラム（両毛地区）の開催結果の概要について

1. 日時・場所

- ・平成10年5月23日（土）10時00分～12時45分
- ・足利市「ニューミヤコホテル本館」

2. 参加者

- ・コーディネーター（宇都宮大学名誉教授馬場信雄氏）
- ・意見発表者（地区内市町村の各種団体等から）10名
- ・早川足利市長
- ・県議会議員（地元選出）7名
- ・一般傍聴者、市町村職員等400名
- ・主催者（県民会議幹事長、事務局）

3. 意見の概要

- 意義などに関する意見 -

- 那須地域という、ワシントン・キャンペラの様な美しい自然の中で国際人の会議を持つことになれば、これは大きな日本の目玉になってくる。これは国際的な中においても、大きく評価される首都機能移転になる。
- 国際政治の舞台や国全体を統治する首都機能が一大都市である東京にあるということは、そこに蓄積された情報が危険にさらされた時、大変混乱を招く原因になる。また、最近の情報ハイウェーの発達によって、瞬時に情報が伝わるため、首都は必ずしも大勢人がいる所を選ばないという状況になってきている。
- 県南地域との関係を考えて新首都（那須）に訪れた人達が県南にもやってくるようになり、県南の歴史的、産業的な背景を見て帰ることで、県南地域の活性化に大きな影響を及ぼす。
- 首都機能移転は、東京一極集中からくる問題点のある程度緩和して、均衡のある国土の形成・規制緩和・地方分権等、国政全般の改革の契機になる。
- 現在の東京には、ヒト・モノ・カネが莫大に集中しており、東海沖に災害が起きた時を考えれば、当然首都機能は分散・移転が望ましい。
- 栃木県は東京から余り遠くない最適な距離にあり、過去何百年にわたって地震等に対して安定した岩盤を持っていることから考えても、ここへ首都機能を持ってくるということは、非常に適切ではないかと考えている。
- 那須野ヶ原の大自然という貴重な文化遺産（オオタカを頂点とした優れた生態系等）に見合うほど、国会誘致が避けて通れない課題なのかという疑問を感じている。
- 候補地の中心地域は、明治期の新政府高官に払い下げられた言うなれば薩長藩閥の植民地がスタートであり、戦後の有力政治家、政商が等価交換、払い下げの形で国有地を手にし、悪徳不動産業者の現況有姿分譲、原野商法の活躍の舞台となった。こういった土地所有形態が多額の国費・県費の投入に果してふさわしいのかという疑問がある。
- 確かならざるものへの過度の期待による県費の投入は、避けるべきではないか。あえて分散が正しいとすれば、関東地方は、今まで恵まれることの無かった東北地方へ譲ってあげる優しい寛容の心があってもよいのではないか。
- 那須地方は、東京からわずか150・圏の所でありながら、素晴らしい自然があり、21世紀の新首

都にふさわしい都市である。

- 田沼町は、那須からも東京からも1時間弱の等間の距離にあり、大変便利な地域になる。
- 栃木県には国会があるということになれば、栃木県が有名になり、それは私たちにとって、うれしいことではないか。
- 首都機能が東京より西へいった場合は、西高東低の状況がより一層助長されてしまうため、首都機能は日本の中心点の近く（那須）に存在したほうがよい。
- 那須は日本の地理上のバランスや、東京から北に新しく延びる国土軸を形成するためにも、ちょうどよい地点にある。
- 様々な機能が東京に集中しており、それを是正しなければならないということが言われている中、首都機能が移転するということになり、この流れは非常に良いことである。
- 東京都の一人当たりの公園面積は1坪分ぐらいしかなく、災害が起きたときの被害を考えるとこわいものがあり、海外の救援依頼などを考えると、政治と経済が分かれている姿が好ましい。
- 首都機能が那須に移転されることによって、本当の意味での行政改革であるとか小さな政府といったもののメリットを出してこられるのではないか。
- 学校では国、国旗、首都といったものをセットで学ぶわけだが、そこで首都が那須になるということは、栃木県民にとって非常に誇りがもてることではないか。
- 県南地区を考えた場合、新首都と最大都市東京の中間点にあるということは、プラスであり色々な意味で新しいビジネスチャンスが出てくるのではないか。那須地域への首都機能移転は、強力に進めるべきである。
- 首都機能を移転することよりも、地方分権によって東京の一極集中を解消し、しかもその方が社会的な費用も少なくすむという意見があるが、今までの日本の経緯からみて制度によって変革する手法は非常に難しい。よって、首都を移転させるというハードからの変化の方が、スムーズであり機能しやすいと考えているため、首都機能移転には賛成である。
- 将来、色々な意味で情報がどこにあっても同じというような時代を考えると、民間企業の本社機能もどこにあっても同じということになり、経済的な効果はすぐには期待できないような気がする。

-課題に関する意見-

- 現在の那須は、新幹線や高速道路等の効率が大変良いことから、その点での費用は他の地域より安くできる。よって、その分の費用を県南を含めた那須の周辺地域へのアクセス（空港等）に使うことが考えられる。
- 首都機能移転は、国家的な事業であることから、国全体として取り組み、100年、200年先のことを考えて実施しなければならない。
- 首都機能が那須に移転された場合、足利・佐野・葛生・田沼は、東京へも100km、那須へも100kmという地域にあるため、距離的な優位性が余り見られない。また、この地域には現在でも宇都宮・前橋・高崎があり、これからの若者がそのはざまに陥った時の将来を考えたとき不安があるのが事実である。首都機能が那須へ移転した場合、この地域は単なる通過点となってしまう、開発が遅れるのではないかという不安がある。
- 首都機能移転によって本県の発展を図ることは重要であるが、これからの21世紀に対して、新首都はどうあるべきかという県民のビジョンを構築することが大切である。
- 北東地域は、他の地域と比べて条件が揃いすぎており、候補地に名乗りを上げるのもうなずけるが、この問題についての各地の議論は、ほとんど経済的な効果を期待しているものが多く、特に教育面、子供に対することが余りない。

- 県内にも飛行場をつくる話があったが、それが実現された場合、騒音公害を考えるととても住みにくい町になってしまうのではないか。
- 北関東最大と言われる関谷活断層について、今まで資料等で何の説明もないのは残念である。
- 県内の田園地帯には産業廃棄物の山がそびえ、平地林の中は不法投棄されたゴミが埋め尽くされている。よって、首都機能移転のような新たな開発よりも、それらの問題に対して優先して取り組む施策があるはずである。
- 現在、那須地方では、市街化区域、市街化調整区域の指定といった都市計画法上の線引きは、全く行われておらず、乱開発が周囲に波及することを法的にとどめることができるのか。
- 国に対して多極分散を求めるのなら、県は自らが宇都宮一極集中の是正に取り組まなければならない。
- 失われた自然を取り戻すことは困難なことであり、私たちが責任をもって郷土の山河、大事な国土を次の世代に引き継いでいくことは、日本国民として、県民として、それぞれの市民としての役割ではないか。
- 今ある自然、栃木県の風土の良さを、いかにして残すかということではなく、自然の中に建物をいかに調和させていくかという、まちづくり・都市計画を考えれば非常に優れた首都機能移転ができるのではないか。
- 環境をそのまま残していきたいのなら、農地や山林に固定資産税をかけないような優遇措置を考えれば、時間はかかるが優れた首都機能移転ができるのではないか。

-要望に関する意見-

- 開発にはいつも伴う廃棄物・自然環境・地価高騰・乱開発等の法整備を新たに市民・行政・企業が一体となって取り組まなければならない問題が発生すると考えられる。よって、それらの問題に対処するためには、こういったフォーラムを積極的に行って県民の声が一体となることが望ましい。
- 両毛地区は、福島空港・羽田空港・成田空港から全て3時間かかる。これは、大きな問題であり、埼玉・栃木・群馬を中心とした場所に空港が必要であると思う。
- 県南における首都機能移転についての関心は、高くないのが実態ではないか。今後も広報・広聴活動が行われると思うが、それにあたっては具体性・広域性を持った活動を展開していただきたい。
- 首都機能移転により、那須地域周辺だけではなく、県民全体の生活・教育・文化・福祉等、広い分野にわたって具体的にどのように波及し、その向上と発展が期待できるのか、イメージが描ける形で論議が深まるような広報・広聴活動を官民一体となって行っていただきたい。
- 老若男女、年長者から青少年、また教育・文化・経済・産業・福祉・環境保護等の様々な各種団体の広い分野の方々の考え、理念などを聞き、形式的ではなく、草の根的な活動を通して、首都機能移転問題に対して県民誰もが自分自身の問題だと受け止められるような公聴活動を願う。
- 現在の栃木県は、宇都宮一極集中になっているが、那須に首都機能が移転された場合は、県南地域にもそれなりのものを分散し、ミニ一極集中が起こらないことを期待したい。
- 栃木県は民間の開発に対して規制がきつく、首都機能が移転され、それに付随した民間の活力が来た場合に、受け入れられる土壌があるのか心配である。よって、その辺も考えて、運動を進めていただきたい。
- 首都機能は移転させずに行政をもっとスリムにし、北東地域には都市人口を分散させるようなものをつくっていただきたい。そして、将来のある子供たちが豊かな自然のなかで安全で安心して暮らせる町をつくり、これからの国づくり・人づくりを進めていけるような機能をこの北東地域につくって欲しいと思う。

- 田沼町は、「日本列島のへそ」ということで町おこし事業を展開しているが、それを栃木県が日本の中心としてとらえ、首都機能移転の運動ができれば幸いである。
- 那須の自然を利用した世界にアピールできる環境にあった都市づくりは、歴史的に大きな事業であり、これは県民一体となって大いにその利点に賛成するようにお願いしたい。
- まちと自然が上手に近接し、本当の豊かさを実感できる、そんな那須の地に、環境と共生した新しいライフスタイルが生み出せる未来型の首都機能移転をお願いしたい。

-意見交換における主な意見(要旨)-

- 国会のある自然の恵みの多い安全な那須ということを考えて場合、国際的な会議を日本でも開ければ、21世紀の日本の果たす役割の中で、大きな首都機能移転の一面になるのではないか。
- 首都機能が那須に移転された時の県南地区を考えて場合、それぞれのまちが自立して自分たちの魅力を示し、勢いをもって我々のまちを維持発展させるということを前提にすれば、チャンスは県南地区にもある。
- 両毛地域には首都機能移転に対する波紋が全くないので逆に、もっと早くこの地域でフォーラムを開催し、色々な意見を聴くべきであった。
- 首都機能が移転された時の60万人の人口にどう対応するのかといった、水問題に対する意見が今回全く出なかった。
- 足利・佐野・葛生・田沼も今回のフォーラムを契機に、自分たちの問題として、意見が飛び交うようになればと思う。